

SFC 研究所ラボラトリ年次活動実績報告書

ラボ名称	看護ベストプラクティス研究開発・ラボ		
ラボ代表者	氏名	宮脇 美保子	所属 看護医療学部
ラボ設置期間	2012年3月1日 ～ 2021年3月31日		9 年間

構成メンバー（提出時点）		
氏名	所属・職位	役割
宮脇 美保子	看護医療学部・教授	ラボラトリリーダー 倫理的看護実践研究開発
武田 祐子	看護医療学部・教授・学部長	遺伝看護実践研究開発
野末 聖香	看護医療学部・教授	精神看護実践研究開発
永田 智子	看護医療学部・教授	倫理的看護実践研究開発
深堀 浩樹	看護医療学部・教授	高齢者看護実践研究開発
矢ヶ崎 香	看護医療学部・教授	がん看護実践質保証研究開発
小池 智子	看護医療学部・准教授	ベストプラクティス先導ナース開発研究
福井 里佳	看護医療学部・准教授	倫理的看護実践研究開発
福田 紀子	看護医療学部・准教授	精神看護実践研究開発
大坂 和可子	看護医療学部・准教授	がん看護実践質保証研究開発
新幡 智子	看護医療学部・講師	がん看護実践質保証研究開発
山本 亜矢	看護医療学部・講師	倫理的看護実践研究開発
石川 志麻	看護医療学部・講師	看護実践研究開発
朴 順禮	看護医療学部・講師	看護実践研究開発
田村 紀子 他 9名	看護医療学部・講師	がん看護実践質保証研究開発

年次活動実績報告
研究活動報告（設置申請書、継続申請書の研究活動計画と対比するように記載してください。）
■目的 本ラボラトリーは、最善の看護実践(ベストプラクティス)に不可欠である、①看護実践の質保証(Quality)を推進する実践研究開発、②個別化・最適化した看護実践を現場に浸透・波及(Utility)できる看護リーダーの養成、③当事者の価値を尊重する倫理的看護実践の醸成(Explore)、をめざすものである。この目的のために、＜看護実践の質保証研究開発＞＜ベストプラクティス先導ナースのキャリア開発＞＜倫理的看護実践のためのシステム構築＞の3つの研究グループを組織化する。研究グループが開発した新たなケアツール、ケアプログラムを標準化し、均てん化を図るために、さらに、eケアやe-learningなどを推進する。 ■研究活動の成果（2019年度：8年目） 患者アウトカムを促進するための最適なケアのエビデンスを集積し、標準化を行った。具体的成果を下記に示す。 1)「生体センサを活用した心不全患者のための「こころと眠りの支援プログラム」開発と評価」プロジェクト ・心不全と診断され循環器内科に通院中の75才以下の患者を対象とした横断研究デザインによる質問紙調査を実施し、心不全患者のこころ、身体、睡眠の特徴と、これらの関連について分析中である。 2)「安全、安心ケアネット構築」のプロジェクト： ・多施設共同研究による「経口抗がん薬の服薬自己管理支援プログラムの有効性：ランダム化比較試験と質的研究によるMixed Method」の論文を投稿した。 ・末梢神経障害に伴う乳がん患者の転倒リスクに関する量的研究の論文は採択、掲載された。 ・がん化学療法に伴う末梢神経障害のある患者より転倒、転倒未遂の調査は現在、データ収集および中間解析を進めている。 3)「分子標的治療に伴う皮膚障害（さ瘡様皮疹等）に関する調査」の研究成果は論文投稿し採択、掲載された。 4)「高齢がん患者を対象にしたインタビュー調査」は、倫理審査で承認を得て、データ収集を開始した。 5)「地域で暮らす百寿者研究」は、全国の百寿者を対象にインタビューによるデータを収集中である。 6)「がん患者向けのディジションエイド開発と活用のための医療者育成プログラム開発」研究は、現在教材開発中である。 7)「産科医療施設における共有意思決定教育に関する研究」は、現在データ収集の段階である。 8)2020年日本がん看護学会学術奨励賞研究部門受賞「乳がん早期発見のための乳房セルフケアを促す教育プログラムの効果」日本がん看護学会誌、2018；32:12-22. 9)遺伝性腫瘍患者・家族に対する看護支援の開発に関する研究 ・Peutz-Jeghers症候群、Cowden症候群、若年性ポリボロシス症候群について、Mindsに準拠したシステムティックレビューを実施し、診療ガイドライン（案）を作成した。 ・看護師を対象としたがんゲノム医療に関連した講習会を実施し、がんゲノム医療中核拠点病院で役割を担う看護師に対して、現状と課題に関するフォーカスグループインタビュー調査を実施した。 10)「老年看護におけるEvidence Based Practiceの促進に関する研究」 ・システムティックレビュー、量的・質的研究、事例研究を実施し、論文発表を行った。 ・認知症ががん患者の終末期のQuality of Life (以下、QOL)を低くする可能性があることを明らかにした論文「Hirooka et al (2020): Impact of dementia on quality of death among cancer patients: An observational study of home palliative care users.」掲載誌を発行している Wiley 社の Research Headlines に掲載され国内外で注目を集め、プレスリリースを行った。 (https://www.keio.ac.jp/ja/press-releases/files/2020/3/12/200312-1.pdf) 11)「レジリエンスと思いやりを構築する医療従事者へのマインドフルネス（Mindfulness for health professionals building resilience and compassion：MaHALOプログラム）の開発」研究 ・MHALOプログラムの効果検証の目的で、RCTによる研究を実施し、データを分析しており論文投稿の準備を進めている。 ・マインドフルネスに関するセミナーおよびワークショップ等の実施した。 12)「倫理的看護実践の推進を目指したリーダー養成のための研修プログラム・教材の開発 ・2020年度4月から3カ月にわたって、「看護倫理研修プログラム」を研究協力施設で実施するための準備を整えた、現在プログラム参加者をリクルート中である。 13)ケアリング文化の醸成-教育におけるユマニチュードの導入 ・患者-看護師間のケアリング関係に求められるユマニチュードの理念およびケアの原則を基礎看護学教育における実践を行った。 14)SFC Open Research Forum 2019に出展した ・SDGsの中で「すべての人に健康と福祉を」に着目し、「緩和ケアに関する看護師教育の普及と効果について」、「がん患者中心の意思決定支援の充実と普及に向けた取り組み」、「有料老人ホームの入居者の避けられる救急搬送・入院の減少を目指して」、「心疾患患者の不眠症に対する非薬物的介入の現状と課題」の4題についてポスター発表を行い、来場者と意見交換を行った。 ・若手研究者のグループ「若葉会」が中心となり、高齢者疑似体験のブースを設置し、学生・院生、教職員の他、中高生から自治体の職員、一般企業の方など、100名近くが高齢者疑似体験に参加した。

研究成果（学術論文、著作物、メディア露出等）

〈論文〉

- 1) Hiroko Komatsu, Kaori Yagasaki, Yasunori Sato, Harue Arai, Sena Yamamoto, Tetsu Hayashida. Kk Evaluation of the Japanese Version of the Cancer Survivors' Unmet Needs Scale. Asia-Pacific Journal of Oncology Nursing. (in press).
- 2) Yagasaki K, Takahashi H, Ouchi T, Yamagami J, Hamamoto Y, Amagai M, Komatsu H. Patient voice on management of facial dermatological adverse events with targeted therapies: a qualitative study. J Patient Rep Outcomes. 2019;3(1):27. doi: 10.1186/s41687-019-0116-3.
- 3) Komatsu H, Yagasaki K, Komatsu Y, Yamauchi H, Yamauchi T, Shimokawa T, Doorenbos AZ. Falls and Functional Impairments in Breast Cancer Patients with Chemotherapy-Induced Peripheral Neuropathy. Asia Pac J Oncol Nurs. 2019;6(3):253-260. doi: 10.4103/apjon.apjon_7_19.
- 4) Jull J, Köpke S, Boland L, Coulter A, Dunn S, Graham ID, Hutton B, Kasper J, Kienlin SM, Légaré F, Lewis KB, Lyddiatt A, Osaka W, Rader T, Rahn AC, Rutherford C, Smith M, Stacey D. Decision coaching for people making healthcare decisions. Cochrane Database of Systematic Reviews 2019, Issue 7. Art. No.: CD013385. DOI: 10.1002/14651858. CD013385.
- 5) Higuchi A, Takita M, Yoshii A, Akiyama T, Nemoto T, Nakahira R, et al. Absence of Relatives Impairs the Approach of Nurses to Cardiopulmonary Resuscitation in Non-Cancer Elderly Patients without a Do-Not-Attempt-Resuscitation Order: A Vignette-Based Questionnaire Study. Tohoku J Exp Med. 2020;250(1):71-8.
- 6) Hirooka K, Fukahori H, Taku K, Izawa S, Ogawa A. Posttraumatic growth in bereaved family members of patients with cancer: a qualitative analysis. Support Care Cancer. 2019;27(4):1417-24.
- 7) Hirooka K, Nakanishi M, Fukahori H, Nishida A. Impact of dementia on quality of death among cancer patients: An observational study of home palliative care users. Geriatr Gerontol Int. 2020.
- 8) Nasu K, Konno R, Fukahori H. End-of-life nursing care practice in long-term care settings for older adults: A qualitative systematic review. Int J Nurs Pract. 2019:e12771.
- 9) Nasu K, Sato K, Fukahori H. Rebuilding and guiding a care community: A grounded theory of end-of-life nursing care practice in long-term care settings. J Adv Nurs. 2020;76(4):1009-18.
- 10) Nishikawa Y, Hiroshima N, Fukahori H, Ota E, Mizuno A, Miyashita M, et al. Advance care planning for adults with heart failure. Cochrane Database Syst Rev. 2020;2:CD013022.
- 11) Okumura-Hiroshige A, Fukahori H, Yoshioka S, Nishiyama M, Takamichi K, Kuwata M. Developing a Measure of End-of-Life Care Nursing Knowledge for Japanese Geriatric Nurses. J Hosp Palliat Nurs. 2019;21(4):E1-E9.
- 12) Okumura-Hiroshige A, Fukahori H, Yoshioka S, Nishiyama M, Takamichi K, Kuwata M. Effect of an end-of-life gerontological nursing education programme on the attitudes and knowledge of clinical nurses: A non-randomised controlled trial. Int J Older People Nurs. 2020:e12309.
- 13) Tomotaki A, Fukahori H, Sakai I. Exploring sociodemographic factors related to practice, attitude, knowledge, and skills concerning evidence-based practice in clinical nursing. Jpn J Nurs Sci. 2020;17(1):e12260.
- 14) Akira Ninomiya, Mitsuhiro Sado, Sunre Park, Daisuke Fujisawa, et al. Effectiveness of Mindfulness-Based Cognitive Therapy in Patients With Anxiety Disorders in Secondary-Care Settings: A Randomized Controlled Trial. Psychiatry Clin Neurosci. 74 (2), 132-139. 2020.
- 15) Mitsuhiro Sado, Teppei Kosugi, Akira Ninomiya, Maki Nagaoka, Sunre Park, et al. Effectiveness and Cost Effectiveness of Mindfulness-Based Cognitive Therapy for Improving Subjective Well-Being Among Healthy Individuals: Study Protocol for a Randomised Controlled Trial. JMIR Res Protoc. (Online ahead of print).
- 16) Sunre Park, Yasuko Sato, Yuka Takita, Daisuke Fujisawa, et al. Mindfulness-based Cognitive Therapy for Psychological Distress, Fear of Cancer Recurrence, Fatigue, Spiritual Wellbeing and Quality of Life in Patients With Breast Cancer - A Randomized Control Trial. J Pain Symptom Manage. 2020 (Online ahead of print).
- 17) 花田美里, 赤井畑明里, 長尾祥子, 廣山奈津子, 瀬戸菜月, 深堀浩樹. 【臨床実践を研究につなげる「ケアの意味を見つめる事例研究」に臨床の現場で取り組む】看護研究. 2019;52(4):254-63.
- 18) 金盛琢也, 酒井郁子, 山川みやえ, 深堀浩樹, 他. 老年看護政策検討委員会活動報告 外来診療における認知症患者に対する看護師の役割に関する展望. 老年看護学. 2019;24(1):87-91.
- 19) 深堀浩樹. 【臨床実践を研究につなげる「ケアの意味を見つめる事例研究」に臨床の現場で取り組む】看護研究. 2019;52(4):248-53.

- 20) 深堀浩樹. 指導教員の立場から 大学院生の国際学会発表を促進するために 看護研究. 2019;52(5):330-6.
- 21) 真志田祐理子, 深堀浩樹, 太田喜久子. 大腸切除術後に老いを生きる後期高齢者の生活の変化とその対応. 日本看護科学会誌. 2019;39:278-87.
- 22) 平田三奈, 戸田あゆみ, 廣山奈津子, 山縣千尋, 西川裕理, 深堀浩樹. 知的障害者の家族の課題と支援に関する質的研究の文献検討. 小児看護. 2019;42(9):1183-9.
- 23) 友滝愛, 津田泰伸, 深堀浩樹. 専門看護師の活動を紐解き現場に活かそう. 看護管理. 2019;29(3):227-9.
- 24) 友滝愛, 津田泰伸, 深堀浩樹. 特集のまとめ 臨床看護師の「看護研究」を「ケアの質改善」につなげるための提案. 看護管理. 2019;29(3):252-4.
- 25) 友滝愛, 津田泰伸, 深堀浩樹. 看護研究の何を問い直すのか?: 研究の目的と研究を推進する組織文化. 看護管理. 2019;29(3):209-13.
- 26) 藤田美保, 米倉佑貴, 大坂和可子他. ディシジョン・エイドの質基準から見た説明文書の現状と課題: 治験関係者へのインタビュー調査を含めて. 臨床薬理. 2019; 50(6): 247-257.
- 27) 大坂和可子, 青木頼子, 江藤亜矢子, 他. 意思決定の葛藤をアセスメントするスクリーニングツールSURE test日本語版の開発. 日本看護科学学会誌. 2019; 39: 334-340.
- 28) 武田 祐子 (2019) がんゲノム医療の現状と課題～その人らしさを支えるための個別化医療～, 日本がん看護学会誌33巻 Suppl. Page114
- 30) 武田 祐子 (2019) がんゲノム医療の現状と課題. 看護71巻10号 Page68-70
- 31) 武田 祐子 (2019) 緩和ケアの場で必要な遺伝性腫瘍の知識と遺伝カウンセリング(第2回) 遺伝性腫瘍とは何か, エンド・オブ・ライフケア3巻5号 Page69-73
- 〈著書〉
- 1) 宮脇美保子(単著):身近な事例で学ぶ看護倫理(2nd Ed)、中央法規. 2020
- 2) 宮脇美保子(編著):基礎看護学④ 臨床看護総論(改訂第3版)メヂカルフレンド社、2019
- 3) 宮脇美保子(共著):看護理論家の業績と理論評価、医学書院、2020
- 4) 福井里佳(共著):基礎看護学④ 「宮脇美保子編:臨床看護総論(改訂第3版)」メヂカルフレンド社、2019
- 5) 朴 順禮: 第9章医療スタッフのケア 「恒藤暁、田村恵子編: 系統看護学講座別巻緩和ケア」p. 256-264. 2020. 医学書院.
- 6) 小林良子(共著): 基礎看護学④ 「宮脇美保子編: 臨床看護総論(改訂第3版)」メヂカルフレンド社、2019